

「豊かな水と森を守る」をテーマに交流授業

町では令和3年7月「甘楽の天然水商品化プロジェクト委員会」を立ち上げ、「かんらの天水」の商品化を契機に産官学民一体となり、水資源を中心とした森林保全、観光振興、教育の推進に取り組んでいます。

11月1日、町内の小学校3校で、町と包括連携協定を締結し同委員会の構成メンバーでもある高崎商科大学の学生による交流授業が行われました。

同大学の学生が町有林視察での体験で学んだ水源と森林保全の関連性やその重要性を小学6年生に分かりやすく伝えようと企画されたものです。児童はグループに分かれ、水資源と森林保全の関わりについてその課題や解決方法を話し合い、豊かな水と森の関係性について学習する貴重な機会となりました。



話し合った結果を発表する福島小の児童とアドバイザーを務めた商科大学生(左)

世界各国から研修生が来町

JICA(国際協力機構)の日系社会研修でパラグアイから7人、ボリビアから1人の研修生が来町し10月25日、役場を訪れ茂原町長らと懇談しました。(右写真)

研修生は、町に滞在中、農業を中心とした国際交流事業に取り組む自然塾寺子屋(小幡)を拠点にし、道の駅を通じての地域づくりや町の農業について学びました。

茂原町長は「農業はどここの国でも重要。有意義な研修にしてほしい」と激励しました。



11月17日には、国が推進する人的交流事業「対日理解促進交流プログラム」で群馬県内を訪れているカンボジアからの研修生10人が来町しました。(左写真)

SDGsに対する取り組みを学んだり文化に直接触れることで日本への関心と理解を深めてもらうことが目的で、町での研修では「オーガニックビレッジ」のPR動画を視聴するなど有機農業を通じた持続可能な循環型社会を目指す取り組みについて学んでもらいました。



関東大会での活躍に期待 あすなるジュニア

群馬県スポーツ少年団秋季バレーボール交流大会兼県小学生総体バレーボール競技会が、10月29日から子持社会体育館(渋川市)ほかで開かれました。

あすなるジュニア(池田多春監督)は県内上位14チーム(Aクラス)による予選会で3位に入り、11月25日から東京都町田市で開催される関東大会への出場を果たしました。

金井愛莉キャプテン(福島小6年)は「上位大会出場を目指していたので関東大会出場はうれしいです。大会関係者、指導者、全ての人に感謝し、自分たちの力を試してきたいと思います」と話してくれました。



ドッジボールで北関東大会に出場 富岡ウイング

富岡ウイング(小幡ドッジボールクラブ・大塚俊樹監督)は10月9日に太田市運動公園市民体育館で開かれた第25回北関東ドッジボール選手権群馬県予選で8位入賞を果たし北関東大会への出場切符を手に入れました。

10月29日にぐんまアリーナで(前橋市)で開催された北関東大会では全国出場経験のある強豪チームに挑みましたが、惜しくも決勝トーナメント進出を逃しました。

福島小6年の田村瑠斗キャプテンは「これからも上位を目指して、チームみんなで声を出し合い頑張りたいです」と話してくれました。



チームは小幡小体育館を練習拠点に活動しています

県1年生大会で準優勝 甘楽中ソフトテニス

群馬県中学校1年生ソフトテニス大会が11月5日、敷島公園テニスコート(前橋市)で開かれました。

地区予選を優勝して本大会に出場した甘楽中学校の森平莉万理さんと北川尊さんのペアが、準優勝という素晴らしい成績を収めました。

4月に入学してからペアを組んだという森平さんと北川さんは「これからも2人で力を合わせ、良い成績を収められるように頑張ります」と息もぴったり、笑顔で話してくれました。

2人は決勝で惜敗した悔しさをバネに次の目標に向けさらなる技術の向上のため日々練習に励んでいます。



森平さん(左)と北川さん

はちみつの品評会でダブル受賞 宇佐美さん

第27回はちみつ品質向上共励会(群馬県養蜂協会主催)が10月18日に、県庁で開かれました。風味、色合い、糖度で審査が行われ、宇佐美秋夫さん(轟)がアカシアの部で日本養蜂協会長賞に、百花の部で県養蜂協会長賞に入賞しダブル受賞となりました。

養蜂歴16年の宇佐美さんは、おいしいはちみつを採取するために女王バチを自らの手で育てハチの数も通常より多く飼育したり、巣箱の中を確認し産卵やエサの確認、病害虫の発見などに日々気を配っています。

今年も天候に恵まれたことと、ハチの管理が十分に行き届いたことで品質の良い蜜ができたと話す宇佐美さんは「将来的に巣箱のオーナー制度の検討など、はちみつが健康にいいということをもっと多くの人に広めていきたい」とさらなる目標を話してくれました。



ハチを丁寧に扱うことが大切と話す宇佐美さん

日本語支援で共に育む地域社会を

甘楽町国際交流振興協会(長岡昭宏理事長)は仕事をするうえで必要となる基本的な日本語を覚えながら、ビジネスコミュニケーション上のマナーやルールについても学んでもらおうと「はたらくための日本語講座(全8回)」を開設しました。

町内の事業所6社からベトナム、フィリピン、インドネシア、中国の4カ国34人の申し込みがあり、11月1日にはら・ら・かんらで開講式が行われました。

初日は、同協会の理事で講師を務める元教員の新井順子さん(金井)と齊藤満智子さん(福島)から自己紹介の仕方の説明を受け、練習後に全員の前で発表しました。今後は受講生からの要望を踏まえた内容で講座を進めていく予定です。



自己紹介の実演をする新井さん(左)と齊藤さん

秋畑に子どもたちの歓声が響く 稲含塾が運動会

野外活動グループ稲含塾(浅香勇二代表)が主催する「おもしろ運動会」が10月29日、旧秋畑小学校校庭で行われました。

出されたお題の条件に合った人を探して一緒にゴールへ向かう「人借り競走」や「かごが動き回る玉入れ」などユニークな種目に、町内の小学生とその保護者ら約40人が挑戦しました。にぎやかな子どもたちの声を聞いて近所のお年寄りも見学に訪れ、「甘楽町音頭」が流れるとその踊りの輪に加わる人もいました。

増田マサ子さん(秋畑)は「昔にかえったようで本当にうれしく、元気をもらった」と話し、子どもたちからは「違う学校や地域の人も交流できて楽しかった」という声が聞かれました。



2人1組で息を合わせて走る「ぐるぐる台風」

スポーツ振興に貢献 大河原さん

群馬県内における生涯スポーツ功労者および優良団体の表彰式が11月8日、県庁昭和庁舎で開かれ、大河原和男さん(金井)が栄えある賞を受賞しました。

大河原さんは長年にわたり県や町のサッカー協会役員として各種大会運営に携わり、地域社会の生涯スポーツの普及・振興に貢献されました。また、現在も少年少女サッカーの代表として活躍しています。

「受賞できたことは周りの皆さんのおかげです。今後もサッカーを通じ町の生涯スポーツの振興の一端を担っていきたい」と受賞の喜びを語られました。



木のおもちゃ展開催

第19回木夢「手づくり・木のおもちゃ展」が10月25日から29日まで町文化会館で開催されました。

町内外の愛好家らの作品などを展示したり、乗り物や楽器など木のぬくもりを感じながら遊べるコーナーも設置され、多くの子どもたちでにぎわいました。

協力者の一人でとんぼ工房の柏葉二三夫さん(白倉)は「子どもたちは自由な発想力で遊びをつくり出します。その場に立ち会えることに感謝し、これからも地域に還元していきたい」と話されました。



将来の自分を考える

町教育委員会とハローワーク群馬富岡が連携し、将来の進路選択を考えるきっかけづくりになる「キャリア教育授業」が10月27日、新屋小学校5年生を対象に実施されました。

児童は、職業の説明などが記載された30種類のカードの中から興味がある職業を選び出し、その傾向から自分に向いている仕事を確認することができました。

カードを使った小学校での学習支援は同ハローワーク独自の取り組みで、今年3月に小幡小、6月に福島小で実施され、今回で3回目の開催となります。



友情を育む 宿泊体験

町内の小学校合同の宿泊体験学習が11月9日・10日に実施されました。

3校の5年生が甘楽ふれあいの丘陸上競技場に集合しゲームやダンスで交流した後、甘楽ふるさと館に宿泊しました。2日目は、学校の垣根を越え編成されたグループで小幡地区にある史跡などを巡るウォークラリーを行い、昼食には「野焼きパン作り」でさらに交流を深めました。児童からは「パンがモチモチ」「おいすぎる」との感想が聞かれました。



短い時間で打ち解け合う3校の児童。パンとカレーで昼食